

シヤンティ

shanti

2011
冬
1月号

けものみちをゆく
ボランティア

特集

難民キャンプから

30年



社団法人 シヤンティ国際ボランティア会



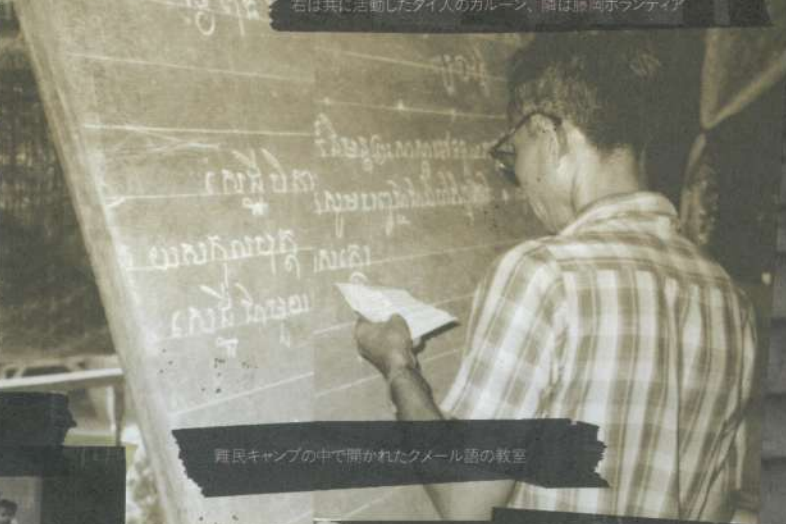
1981年真言宗曹洞宗の援助で設立されたCBDC（文化仏教復興センター）の寺院。SRCの事務所もここにあった



難民キャンプの入口でタイ軍の検問を受ける。右は共に活動したタイ人のカルーン。隣は随員ボランティア



サケオ第2難民キャンプの学校に図書館が開かれた。左は食料コーディネーター、奥に見えているのは寺院



難民キャンプの中で開かれたクメール語の教室



食料の後任コーディネーターをつとめた渡辺和子



カンボジア人が自ら印刷を手がける（サケオ難民キャンプの印刷所）



難民キャンプから鉄条網越しに見る外の世界（サケオ難民キャンプ）

けものみちをゆくボランティア

1980-81 カオイダン・サケオ難民キャンプの日々



難民キャンプから30年

カンボジア難民の救援活動のために設立され、今年30年を迎えたシャンティ国際ボランティア会（SVA）の歴史をひも解くと、すべての事務所は「難民キャンプ」からスタートしています。

1985年、ラオスから逃れてきたモン族が暮らすタイ国内のバンビナイ難民キャンプで印刷所を開設。その後、1992年末のキャンプ閉鎖に伴い、同年4月ラオス事務所をひらきました。2001年にはアフガニスタンの空爆後バキスタンに逃れてきた難民の子どもたちへの支援事業を行い、2003年、アフガニスタンに事務所を開設。2000年よりミャンマー（ビルマ）難民支援事業を開始。ミャンマー（ビルマ）難民キャンプは、1984年から存在しているにもかかわらず、「忘れられた難民キャンプ」と呼ばれ、難民問題が解決するめどがたっていない。第三国定住プログラムも進むなか、いまだにタイには難民キャンプが存在し、平和になったら祖国に戻りたいと願う難民が多く暮らしています。

SVA15周年を記念して出版された『アジア・共生・NGO』（明石出版）に人間の尊厳について書かれた文章があります。

命からがら身一つで祖国を逃れ、難民キャンプの生活を余儀なくされたカンボジア人が、そこから持ち出すことができるものは教育によって身につけることができた知識や知恵、そして技術である。そして、心にしつかりと刻んだカンボジア人としての誇りや伝統、文化だけなのである。（中略）いつしか難民キャンプを出て祖国カンボジアに戻れた時や、第三国での新しい環境の中で大きな力となり、生きるための糧となるものと信じていた。

難民キャンプ、祖国、第三国と場所はさまざまでも、人間が生きていく上でゆるぎない根を作るための栄養は教育であり伝統・文化です。わたしたちが活動をしている間に閉鎖されたキャンプもあれば、続いているものもあります。時を経ても、この信条を曲げることなく歩み続けていきたいという誓いが「難民キャンプから30年」という言葉にこめられています。

（広報課 鎌倉孝子）

「NGOの道はけものみちを歩くのに似ている」。SVA設立メンバーのひとり元専務理事、有馬実成（故人）の言葉です。SVAの前身「曹洞宗東南アジア救済会議（以下JSRC）」、「曹洞宗ボランティア会」の試行錯誤の連続を、30周年の今年、初心にもとって紹介します。



ニッポンの大学生がやって来た

駒澤大学の児童教育教育部の学生たちが来たときに、フォークダンスのジェンカを踊ったこともある。2、3人が踊り始めるとみんながついてきた。楽しいことをやっているとどんどん人が集まってくる。炎天下で踊りの輪が広がった。(三部)

1979年11月、タイ政府と国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)によりカンボジア難民の滞在施設として設立された。一時は人口12、13万人を数え、タイ国内最大のカンボジア難民キャンプとなる。1993年閉鎖。

カオイダン難民キャンプ



ふるしきに道具を包んでマジックショー

マジックショーで、ピストルを取り出したところ、蜂の子を散らすように逃げていってしまった。本物のピストルだと思ったようだ。おもちゃのピストルを知らない、本物のピストルで人が撃たれたことを知っている人たちなのだ、実感した。(三部)



活動のスタートはサケオ難民キャンプ

サケオ第1キャンプのお寺に間借りをしていたことが活動のスタート。お寺ではカンボジア系タイ人のお坊さんたちが民族舞踊チームを作ったり、おはなし会、読み聞かせをしていた。そこへJSRCが加わることで本や巡回図書館の活動が加わり、それがSVAの活動へとつながっていった。

拠点を持ったことで正確な情報、人とのつながり、信頼を得、組織として動き出した。(倉科)

「素人集団、なにも知らない自分たち」。小さな任意団体でマニュアルもノウハウもないが、活動に飛びこんだボランティアたち。バンコクに駐在し、現場の活動を調整した倉科利行(SVA常務理事)、カオイダン難民キャンプの図書館で活躍した八木澤克昌(アジア地域ディレクター)、SVA設立時のメンバーとして東京で活動した三部義道(現SVA副会長)に、当時の思い出を聞きました。



待望の常設図書館ができた

キャンプに常設図書館ができ、本の管理をしなくてはいけないので、毎日通っていた。正門近くに援助関係者をあてに商売していた屋台まで昼ご飯に戻るので、炎天下、何Kmもの道を1日2往復していた。若かったからできたことだと思う。(八木澤)



マジックショーのあとは絵本を読む時間

移動図書館では、教室の台の上の本を並べて、自分たちの好きな本を選んで、席に座って読むようにしていた。(三部)



食事をともにわかちあう

活動を続けるなかで、寺院で食事をいただくこともあった。食糧事情が悪い、乏しい配給から、難民が僧侶にと布施した食事である。その重さを感じ入った。実のところ、自分たちは腹をくだしてしまうことがあって、人目をはばかり正露丸を飲んだりもしたが、供養する難民の信仰に僧侶として心をうたれた。(倉科)



コミュニティセンター(寺院)で活動しているうちに、難民から信頼されて「絵が描ける、字が書ける」人を紹介してくれるようになり、カンボジア人による創作本の出版が可能になった。

ボルボト政権下では字や絵がかけるだけで虐殺の対象にされていたので、警戒されているうちは教えてくれなかったが、「お寺で活動しているお前だから助けてやるよ」と心を開いてくれた。助けられている難民と民族が、助ける側になった、それが自立への一歩となった。(倉科)

難民キャンプに印刷所を開く



バンコク事務所
バンコク市スアンブル1通りに1980年開設。移動図書館活動のため、のべ1300人のボランティアがカンボジア語書籍の印刷をおこなった。



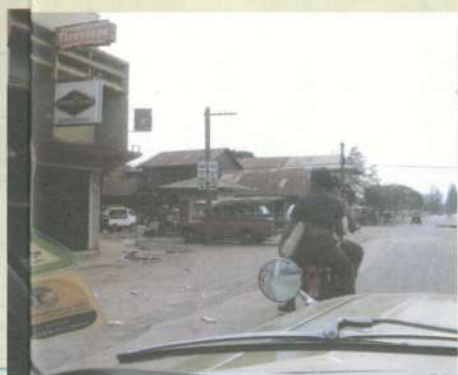
備品もノウハウもないもどかしさ

1980年当時のタイは、バンコクのポストオフィスに行き、東京へ電話が通じるのを半日ばかりで待つような状況。欧米のNGOがテレックスで連絡を取りあっていたのを横目に見ながら、組織の運営の技術的なノウハウがないことはキツかった。(倉科)



タイとカンボジア国境の町。当時、カオイダン難民キャンプで活動する援助機関の事務所が多くあった。難民キャンプ近くに拠点を構える必要ができ、JSRCアランヤプラテート事務所を開設。1993年のカオイダン難民キャンプ閉鎖までタイ人スタッフで活動。

アランヤプラテートに事務所をつくる



アランヤプラテート事務所からビッチハイクでカオイダン難民キャンプへ通っていた。援助機関や欧米のNGOの車がキャンプへと通う道なので、その交差点に立ち、車を拾った。乗せてもらおうとキャンプまで30分くらい話をするが、当時はあまり英語が得意ではなかったの、欧米人の車を避け、タイ人の車を選んだりしていた。国境の町でカンボジア側からは砲弾の音が聞こえ、強盗などもいたので、いま考えるとよくやっていたな、と思う。(八木澤)

バンキヤン村
サケオ難民キャンプがあった村。難民キャンプへ通うための拠点として、ボランティアの宿舎をおいていた。1982年のサケオ難民キャンプ閉鎖までこの周辺でも移動図書館活動を行っていた。

トヨタのワゴン車を改造して移動図書館車をつくる

MTL(移動図書館をこう呼んでいた。モービル・ツーリング・ライブラリーの略)の準備ができたが、1980年7月はカンボジアから何十万人もの難民が流出して、難民キャンプの中を移動させられていた。

この混乱でなかなか活動が始められずイライラした。あらかじめ活動日を決めていても、受け入れ側の学校の先生が移動させられていたり、行く場所がなくなっていたり。そこで事務所があったバンキヤン村の小学校からまずMTLを始めた。(倉科)



振り返ると、図書館活動・出版など1980〜85年にSVAの活動の基礎はできあがってきています。当時から参加している理事・スタッフが思う「これがSVAの活動のターニングポイント」

1979

11月 曹洞宗が第一次調査団20人をサケオ難民キャンプに派遣



農民が多かった難民たちは一カ所に長くいるとそこに落ち着きたくなる。定住意識がわからないようにトラックに乗せられて難民キャンプ間を移動させられていた。



人間の尊厳を大切にと言う観点から、難民キャンプだけの活動から、農村部やタイの都市スラムでも活動を始めたこと。



- 1月 曹洞宗東南アジア難民救済会議 (JSRC) が発足
- 3月 バンコク事務所を開設 (クメール語の図書印刷開始)
- 7月 図書館車による移動図書館活動を開始

1980



カオイダン難民キャンプを訪れた無着成恭元顧問(右)、松永名誉会長(左)



カオイダン難民キャンプの常設図書館

図書館で子どもたちが本を手に取り、いっせいに声を出して読んだのを聞いたとき。図書館にその声が充満して「人間はパンだけで生きているのではない」と、図書館活動の大切さを実感したひとときだった。



タイのスリン県バーンサワイ村で、農村の貧困問題に取り組み始めたこと。地方での生活が良くならないうかざり、都市スラムへ流入してくる人は減らない。農村の貧困を解決しなければスラムの問題は無くなる。

1984

スリン県バーンサワイ村で村民図書館が開設。農村開発をはじめ。



ラオス難民が収容されていたバンビナイ難民キャンプで活動を始めたこと。活動地を広げ、モン族など少数民族の支援に関わるきっかけとなった。

1983



物資を送る支援についてタイと日本のスタッフが激論を交わした「バンセン会議」。このとき改めて規模は小さくても支援を受ける側との交流を大切にしていこう姿勢を意識した。

1982

曹洞宗からSVAへプロジェクトの運営を委託
12月 サケオ難民キャンプが閉鎖される



サケオ難民キャンプに読写版が届いた

2月 バンビナイのラオス難民キャンプで印刷活動を開始

1985



「おはなしきやらばんセンター」の創始者、石竹光江さんとの出会い。石竹さんから「おはなしは教育の原点」ということを学んだ。「おはなしきやらばん」は日本国内で巡回公演を通して子どもへの人間形成、読書指導を提唱していた。SVAの要請をうけてタイへ。公演や研修でSVAの図書館活動に大きな影響を与えた。

カオイダン難民キャンプが閉鎖される

1993

三部義道: 1980年JSRCボランティアとして2カ月間、タイで活動。帰国後SVAの立ち上げから関わり、2001〜5年専務理事。現SVA副会長。松林寺・宿用院(山形県)住職。



八木澤克昌: 東北福祉大でボランティアの呼びかけを見て1980年7月からタイへ。バンコク事務所長、ラオス事務所長などを経て現SVAアジア地域ディレクター。バンコク在住。



手束耕治: 1984年3月からバンコク事務所の調整員として活動を開始。バンペン事務所長、東京事務所事務局長などを経て現SVAカンボジア事務所アドバイザー。プノンペン在住。



人と絵本と未来をむすぶ「かけはし」

SVA 30周年記念プロジェクト

カンボジア難民キャンプの子どもたちへの「未来のかけはし」となるように、手探りで始めた移動図書館活動が、私たちのNGO活動のはじまりでした。

その後、困難な環境におかれている子どもたちへ支援活動を助け、子どもたちへの「絵本とのかけはし」

「教育のかけはし」として、絵本を通じた教育改善事業に取り組んでまいりました。

また、共に生き、共に学ぶことができる平和(シヤンテイ)な社会の実現を目指し、日本国内でも活動を通じて出会った「人のかけはし」となるNGOとして、これからも、現地で支援を必要とされる人びとと、日本からご協力いただいている方との「人のかけはし」となるようなNGOを目指してまいります。

30年を迎えるにあたりSVAは「人と絵本と未来をむすぶかけはし」をテーマに、1年をかけて「かけはし」プロジェクトを展開します。

本から本へのプロジェクト

ブックオフコーポレーション株式会社と提携している「リサイクル・ブック・エイド」を通じて30万冊の本(皆さまのご家庭に眠っている本)を集めての特別事業となります。買取で得られた募金で、各国事務所で絵本出版を行います。1年かけて30万冊を募ります。(P10に詳細)

地域イベント

地域で活動されている方にSVAイベントのご協力をお願いしていきます。そのために貸出パッケージを作り、それを活用いただけるよう準備をすすめています。内容は、SVAで過去に出版した民話絵本の貸し

出し、難民キャンプの子どもたちが描いた絵や写真、当時撮影された「祖国なき人々」等をパッケージにして貸し出しを計画。クラフト・エイドの商品もイベントで販売できるように紙袋一つ分のミニパッケージで準備していきます。また、落語芸術協会との連携で「30周年チャリティ寄席」を地域で展開していきます。

2010年12月11日に、30周年事業の取り組みのキックオフパーティーを開催。これを「かけはしプロジェクト」のスタートとして、一年間の活動を行う宣言を行いました。

キックオフ

2010年12月11日に、30周年事業の取り組みのキックオフパーティーを開催。これを「かけはしプロジェクト」のスタートとして、一年間の活動を行う宣言を行いました。

2011年のイベント

4月

30周年記念誌出版

SVAの活動は「なぜ図書館支援なのか」をわかりやすく伝える本を記念出版します。

11月

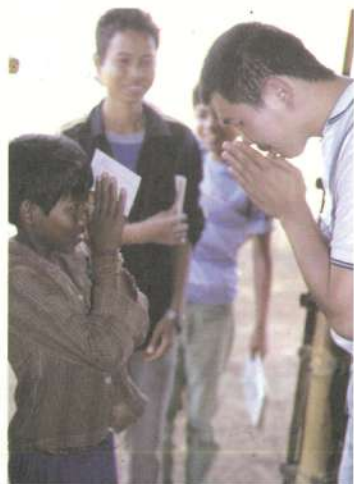
未来のかけはしツアー

2011年11月にカンボジアを訪れるスタディツアーを計画しています。

12月

30周年式典&パーティー

2011年12月10日に、30周年のしめくくりとして式典とパーティーを行います。今まで出会った方々とそして新たに出会う方々と次の30年に向けた宣言を行います。





Japan

あなたの身近で、日々の生活の中で工夫して取りくめ、参加できる国内での活動が広がっています。

本から本へのプロジェクト

SVA 30周年「かけはし」プロジェクト



先生が大きなダンボールをかかえて学校にきた。
 「わあっ」と声をあげてぼくたちは図書館にかけこむ。
 だってその箱はぼくたちにとって宝箱。
 先生が箱を開けた。中にはカラフルな絵本。
 まだ読んだことのない新しい本がはいってる！
 なんども読んで、その物語をおぼえよう。
 そうして覚えたおはなしをまだよちよち歩きの妹に
 僕がしてあげるんだ。本が読みたい！
 大人になったらお医者さんになって、
 病気の人が多い村の人たちをたすけてあげたいな。



1 つめる

みかん箱くらいのダンボール箱に本、CDなどをつめる。きれいなものならばOKです。

2 もうしこむ

集荷日を決めたら SVA に申し込む。

Web

Tel 03-6457-4585
Fax 03-5360-1220

3 おくる

ご希望の集荷日に宅配便(佐川急便)のドライバーがうかがいます。箱は封をしてください。伝票はドライバーがお持ちいたします。



2011年、1年間かけて「本から本へのプロジェクト」をおこないます

読まなくなった本(CD、DVD、ゲームソフトも)はBOOKOFFに買い取られ、その買取額+10%が寄付となります。その寄付額が、カンボジア、ラオス、ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ、アフガニスタンで行う絵本出版につかわれます。タイではスラムや国境地域でのおはなしキャラバン募金にあてさせていただきます。

皆さまの本が、現地の子どもたちが首を長くして待っている絵本に生まれ変わります。そのためには30万冊の本を集める必要があります。ご協力をお願いいたします。

「本から本へのプロジェクト」イベントを開催してください

自分の箱詰めをするだけじゃもったいない。「どうせならお友達や地域の人にも声をかけて取り組みたい。ただ活動をどうやって紹介しようか……」。そういう声が事務局に届きます。

すでに出版されている民話絵本、活動紹介パネル、活動紹介のDVD、現地の子どもたちが描いた絵の貸し出しをいたします。お気軽にお問い合わせください。

開催されるイベントはSVAのHP、ブログ、ツイッターなどで紹介させていただきます。

活動紹介パネルができました!

SVAの活動を写真でわかりやすく説明したパネルができました。「クラブ・エイド」「リサイクル・ブック・エイド」のパネルもありますので、担当(広報課・清野)までご連絡ください。制作:飯田訓久さん(デザイン事務所「Good楽」)

(広報課 鎌倉幸子)

各国事務所のナショナルスタッフ 事業調整員合同研修を開催

8月30日から9月2日までの4日間、ラオスにおいてSVAの各国事務所の調整員レベルのナショナルスタッフ(現地スタッフ)の事業運営能力強化研修を開催しました。これはバナソニックNPOサポートファンド2010年子ども分野助成事業を受けて実現しました。

現在、ナショナルスタッフを中心に事業運営を展開してきている中、事業運営面での責任者として、日本人補佐から主担当の役割を担う能力を養い、事業運営における必要な能力、専門性などについての判断を行う能力を高めることが目的でした。

バンコクに事務所を構えるICネット・アジアから講師をお招きし、ラオス事務所が行っている学校建設事業を事例としてプロジェクト・サイクル・マネージメント(PCM)手法を学びました。参加者は日本人職員も含め、総勢39人。ラオス事務所の全面的な協力の下、実りある研修となりました。各国事務所から参加したナショナルスタッフはグループに分かれ、自分た



上:学校建設地での聞きとり調査を実習
下:国を超えたグループで討議

ちのこれまでの経験を生かして活発に議論を交わしている様子は本当にたくましく感じられました。ナショナルスタッフが一堂に会する機会は希少です。今回の機会を通じて新たな経験を共有し、よりよい教育協力事業が実施されていくことを願っています。(海外事業課 中原亜紀)



絵本が届くまでの様子を中学生がイラストで展示



いろいろな方々が気楽に参加。右上は佐野住職

チャリティ講演会とゴスペル 札幌「佐藤水産文化ホール」

2010年11月16日、チャリティ講演会を開催しました。株式会社佐藤水産様には「鮭蟹供養祭」法要の御縁から多くのご協力をいただいています。1部は、私がカンボジアの歴史とスラムの現状をお話し、「絵本を届ける運動」への協力を呼びかけ、2部はゴスペルシンガーNatukiさんと教え子20人によるコンサート。平和への想いを込めた美しい曲に魅せられ、楽しいパフォーマンスには手拍子と歓声。最後は、オークションで盛り上がりました。この様子はホームページ <http://www4.plala.or.jp/hokoji> で詳しく。(国際ボランティアの寺・法光寺住職 佐野俊也)

しおだ絵本フェスティバル 「みんなの本棚」に参加しました

11月6、7日、塩田公民館(長野県上田市)で開かれた「しおだ絵本フェスティバル」。絵本をきっかけに人と知りあい、世界を広げてもらおうと初めて企画されたこのイベント、絵本に出てくる食べ物を実際に調理したりブックカバーを作ったり、アイデアいっぱいの企画が集まりました。

SVAは「絵本は海を渡って」をテーマに、「絵本を届ける運動」の体験や、民話絵本・紙芝居、民族衣装の展示をして、活動の紹介をし、地域の方とふれあいました。タイのタビオカミルクのふるまいも好評でした。(広報課 清野陽子)

再生への確かな息吹を感じて 三宅島帰島5周年式典に参加

全島避難から10年。この節目を、島の人たちはどんな想いで迎ようとしているのだろうか。「帰島を願いながら亡くなった方を思えば、回復する日を信じ復興していくことが帰島を果たした者の使命」という平野村長の挨拶が心に残っている。幾人かから同じ言葉を聞いた。自分に鞭打つようなその強い志を前に返す言葉も見つからなかったが、今回、良かったと思えたのは、そこに明日への希望や未来がはっきりと見えたからかもしれない。滞在中に話されただれからも当時の苦勞や思い出とともに夢や未来、島の暮らしへの誇りが感じられた。(事務局長 関尚士)



島民の生活支援をしたボランティアや自治会関係者約140人が招かれ、島民と旧交を温めた



「アフガニスタン独立のタラナ」を披露

アジア子供の夢舞台

SVAがアフガニスタンで運営する「子ども図書館」に通う子どもたち8人が9月下旬に来日し、「アジアの子供の夢舞台」に出演しました。夢舞台は、東京都北区などが開催しているイベントで、アジアの子どもたちが民族舞踊や歌を披露します。

アフガンの子どもたちが披露したのは、「タラナ」という詩の朗誦と、「アタン」というダンス。慣れない環境に体調を崩してしまう子どももいましたが、舞台当日は元気に演技を披露してくれました。速くアフガンからやってきた子どもたちの堂々とした演技に、会場からは盛大な拍手が沸き起こりました。(海外事業課 萩原宏子)

Shanti

52 番外編 Staff's

東京事務所と海外事務所に勤務する日本人スタッフに「いま関心があること」を聞きました。

30周年を成功に導く鍵は地域のチカラ



専務理事 ◆ 長野生まれ
茅野俊幸

中国とメコン川流域国の政治経済、文化、開発の動向



アジア地域ディレクター ◆ 栃木生まれ
八木澤克昌



日本の洗濯（龍馬がぶれかな？）
事務局長 ◆ 東京生まれ
市川 浩



やるべきこと、やりたいことをもっとやれるような状況にしておくこと
事務局長 ◆ 東京生まれ
関尚士

国内事業課

早明け、活動地へ無事に絵本を送り出す段取り



絵本を届ける運動 ◆ 新潟生まれ
佐藤 宣子

コリコリ部分をほぐすこと



課長 ◆ 岐阜生まれ
神崎愛子

子どもの成長と発達、特に感情面と言語を育てて仕事の両立



クラフト・エイドを日本全国に広める！
クラフト・エイド ◆ 兵庫生まれ
藤川和美



絵本を届ける運動 ◆ 新潟生まれ
佐藤 宣子



はっとりたかこ
絵本を届ける運動 ◆ 大阪生まれ
服部貴子



韓流スター、各国のマワドナルドの味
絵本を届ける運動（パート） ◆ 福岡生まれ
安倍 砂貴



近所のサークルで種別して、絵本を届ける運動（パート） ◆ 東京生まれ
三宅千英子

海外事業課

健康食品、パアの練習がしたい



課長 ◆ 福岡生まれ
中原亜紀

豊かな食卓料理作りは目覚めようか？



タイ/ミャンマー（ビルマ）難民事業 ◆ 岐阜生まれ
塚本真衣子



久し振りの日本を健康に楽しむ方法
カンボジア事業 ◆ 愛知生まれ
鈴木晶子

カレン語の歌をマスターすること



カンボジア事業 ◆ 神奈川生まれ
山室仁子



3月の総会までを無事乗り切ること
総務 ◆ 茨城生まれ
河口尚子



楽しんでやる方法
総務 ◆ 神奈川生まれ
黒澤真理子

広報課

アジアの子どもの30年後



課長 ◆ 青森生まれ
鎌倉幸子



心穏やかに過ごすにはどうすればいいか？
広報 ◆ 埼玉生まれ
大森篤史



クラフト・エイドを日本全国に広める！
クラフト・エイド ◆ 兵庫生まれ
落合あつさ



クラフト・エイド/広報 ◆ 埼玉生まれ
壺山順世



最近始めた英語への期待と記憶力低下の不安
クラフト・エイド（パート） ◆ 東京生まれ
渡辺ちひろ



CBS/ブックエイド/会員 ◆ 東京生まれ
古賀東彦



「伝えたかった」を「伝わるカタチ」に
ラオス/カンボジアスラム・文化事業 ◆ 群馬生まれ
木村万里子



効率的に仕事を進める方法
アフガニスタン事業/課長アシスタント ◆ 滋賀生まれ
萩原宏子



健康、幸せ、時間の使い方について
カンボジア事業 ◆ 栃木生まれ
野口早苗



データ管理 ◆ 秋田生まれ
北嶋友一



新しい人との出会い
言語としての文字とその背景
総務 ◆ 東京生まれ
守重真理恵

経理・総務課

緊急救援



モデルとしてShantiの表紙を飾ること！
緊急救援 ◆ 東京生まれ
薄木浩一郎



無事にパキスタンでの活動を終えてたらずに日本に帰る
緊急救援 ◆ 千葉生まれ
白鳥孝太

カンボジア事務所



所長 ◆ 静岡生まれ
山本英里



エクスサイズ、パグのしつけ、若手作家の小説
アドバイザー ◆ 徳島生まれ
手束耕治



カンボジア！カンボジア！カンボジア！
プログラム・オフィサー ◆ 神奈川生まれ
江口秀樹



凱旋門公園でのジョギング、ラオス語の上達
所長 ◆ 北海道生まれ
伊藤解子



国際部コーディネーター ◆ 静岡生まれ
鈴木淳子



「あと何日でラオス人と間違えてもらえるか」が気になっています！
プログラム・オフィサー ◆ 広島生まれ
仁井勇佑



国際部コーディネーター ◆ 兵庫生まれ
松尾久美



自分なりのワーク・ライフ・バランスを模索すること
小野 大
難民事業事務所 ◆ 北海道生まれ
小野 大



自分なりのワーク・ライフ・バランスを模索すること
所長 ◆ 北海道生まれ
三宅隆史

アフガニスタン事務所



いい音楽をやがると、ジュビロの活躍
宗教法人 ◆ 大分生まれ
青島寿宗



落語家さんとお坊さんの共通点
宗教法人 ◆ 宮城生まれ
自覚大道



わが家の窓から望む東京スカイツリーの変化
広報 ◆ 埼玉生まれ
大菅俊幸



楽しいShantiを作る、ていねいな生活をおくる
広報 ◆ 宮城生まれ
清野陽子



どうしたらテニスがかまくらになるか
SVAタイランドアドバイザー ◆ 広島生まれ
三宅隆史

SVAからのお知らせ

「公益法人移行」 進捗状況報告

「シャンティ」2010年秋号でお知らせしましたとおり、8月9日付で公益法人移行申請を内閣府に申請いたしました。その後経過報告をさせていただき、9月1日に申請書類の記載基準等の審査が行われました。その結果、9月7日には、審査監督調査官(担当官)から審査内容の連絡があり、公益事業の説明、予算の整合性など、書類の修正・変更、補

足資料の追加の提出が求められました。

その中で、当会の新定款案(公益法人移行後の定款)、諸規程案の一部修正が必要となる旨を伝えられました。指摘があった修正箇所が、軽微な変更ならば、会長一任により修正をおこない再提出することは可能ですが、今回の修正については、総会審議が必要な事項となりました。そのため、9月15日に臨時理事会を開催し、修正内容を確認承認いただき、引き続き、11月2日に臨時総会を開催し、正会

員の皆さまにご承認いただいた修正書類をもって、内閣府に提出させていただきます。この様に、申請書類に関して、何度か審査監督調査担当官と修正のやり取りをおこない、その後、大きな問題がなければ担当官から常勤委員会に申請書類を上審します。そして、最終審査、答申については認定委員会という、段階的な審査となっています。

2010年11月の現段階では、申請書類全般に大きな問題もないということから、2010年内に認定委員会からの答申の可能性が考えられます。その場合、登記の時期を当会の決算期(1月~12月)にあわせ、1月に法人登記をする可能性も見えてきました。

そこで、1月1日~3日まで法務局が正月休みとなるため、1月4日に登記完了した時点ではじめて「公益社団法人」となります。(専務理事 茅野俊幸)

※12月10日付、公益社団法人への移行が内閣府公益認定等委員会より内閣総理大臣へ正式答申され、登記するのとなりました。



2011年度通常総会のお知らせ

2011年度通常総会を下記の通り開催いたします。社員会員の皆さまには3月初旬にご案内と総会資料をお送りしますので、よろしくお願いたします。総会での議決権は社員会員の方のみになりますが、賛助会員の皆さまにもご出席いただけます。賛助会員の方にはご案内を同封しますのでご覧ください。

日時 2011年3月26日(土)
通常総会 13:30~17:30
会場 真生会館会議室(新宿区信濃町33番地)

主な議題 2010年度事業報告・決算報告について
役員改選について

◎経理・総務課 市川斉、河口尚子

人事のお知らせ

- | | | |
|-------|---|---|
| 異動 | 神崎 愛子 | 海外事業課 タイ・ミャンマー(ビルマ) 難民事業担当から、国内事業課長補佐へ(2010年11月15日付) 国内事業課長へ(1月1日付) |
| | 鈴木 晶子 | カンボジア事務所スタッフから、海外事業課タイ・ミャンマー(ビルマ) 難民事業担当へ(2010年10月1日付) |
| | 鎌倉 幸子 | 国内事業課長から広報課長へ(1月1日付) |
| | ※2011年度より広報課が新設され、国内事業課 広報担当と宗教法人部門担当は、広報課所属になりました。 | |
| 入職 | 江口 秀樹 | カンボジア事務所NGOジュニアプログラムオフィサー(2010年11月15日付) |
| | 仁井 勇佑 | ラオス事務所NGOジュニアプログラムオフィサー(2010年11月15日付) |
| 休職 | 林 飛鳥 | 2010年11月22日より休職 |
| 契約の変更 | 山室 仁子 | 海外事業課パートスタッフから、カンボジア事業担当嘱託スタッフへ(2010年11月22日付) |
| | 服部 貴子 | 国内事業課「絵本を届ける運動」契約スタッフから正スタッフへ(1月1日付) |

社団法人 シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015
東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階

TEL 03-5360-1233
FAX 03-5360-1220

WEB <http://www.sva.or.jp>
E-Mail info@sva.or.jp
郵便振替 00150-9-61724

● 当会へのご寄付は、所得税および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。

「シャンティ」は、FSC 森林認証紙(SGS-COC-001773)にノンVOCインキ(石油系溶剤 0%)で印刷しています。

スタッフのひとこと

冬といえば

■ 私が生まれ育った新潟では、冬は曇天と北風の季節。でも、寒さをこらえて家に戻ると、あたたかいコタツや湯気のたつ美味しいゴハンが待っている。温もりを感じる季節でもあります。豪雪地に暮らす時は、かんじきを履いて山に入ると、来る春を待つ山のエネルギーに元気をもらいました。(「絵本を届ける運動」担当 佐藤直子)

■ 久しぶりに「うさぎましろ」を読みました。雪が積もるのが楽しい絵本で、子どものころはおもちゃのなる木がどこかにあるのではないかと、冬の山に行くたびに金色に光る木を探していました。4年ぶりに日本で冬を過ごしますが、一面銀世界の地元高山の冬景色が見られるのが楽しみです。(海外事業課 鈴木晶子)

■ …師走、師走といえは：除夜の鐘、除夜の鐘といえは：頭が寒い。私は実家がお寺なので、除夜の鐘は聴くものではなく撞くものなので寒いです。九州の大部分でも大晦日に雪が降ることもあります。頭が寒いです。(宗教法人部門担当 自覚大道)

編集後記 ■ いよいよSVA30周年です！2011年の「シャンティ」は、SVAの30年間とこれからご紹介する誌面を準備しています。みなさんの思い出もぜひお聞かせください。(清野陽子)